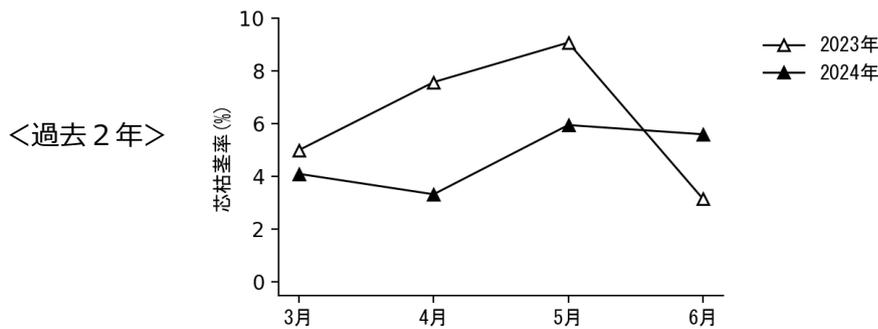
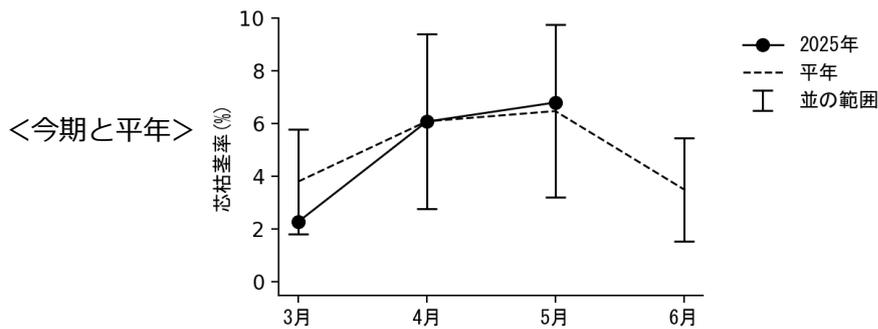


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類 (カンシャシクイハマキ・イネヨトウ)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↘		
		6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)		

調査結果

芯枯莖率の推移 (株出し)



- ・発生種：カンシャシクイハマキ (71.4%)、イネヨトウ (28.6%)
- ・発生ほ場率95.0% (平年：92.1%)

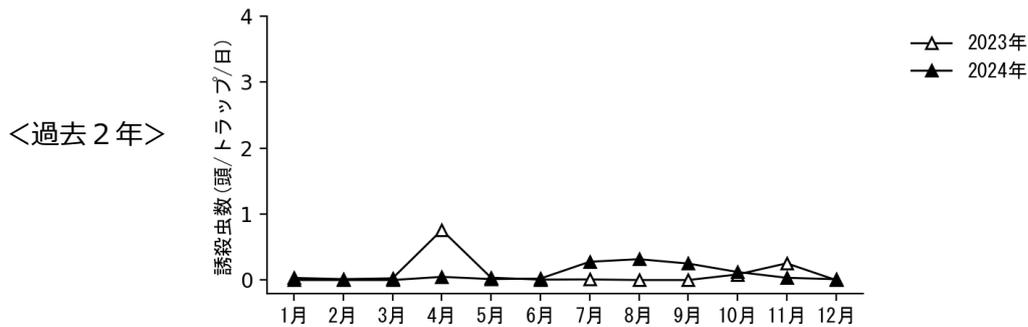
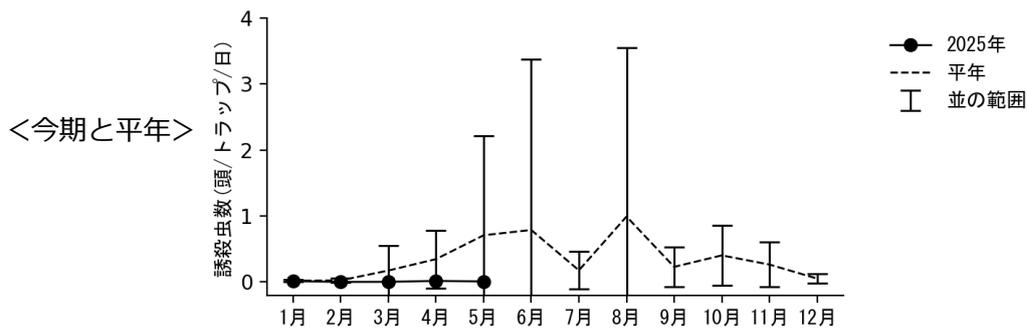
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ莖を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効莖を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・植え付け時及び培土時に土壤害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・莖葉への乳剤等の散布は、葉鞘と莖のすき間に十分な薬液が入るように丁寧に行う。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 40.5%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

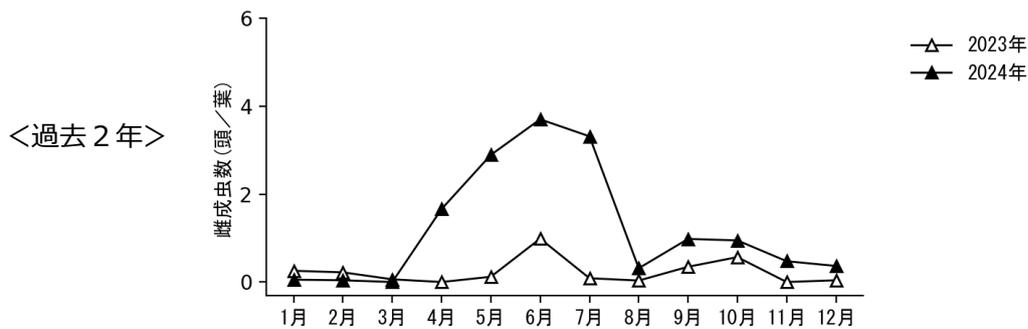
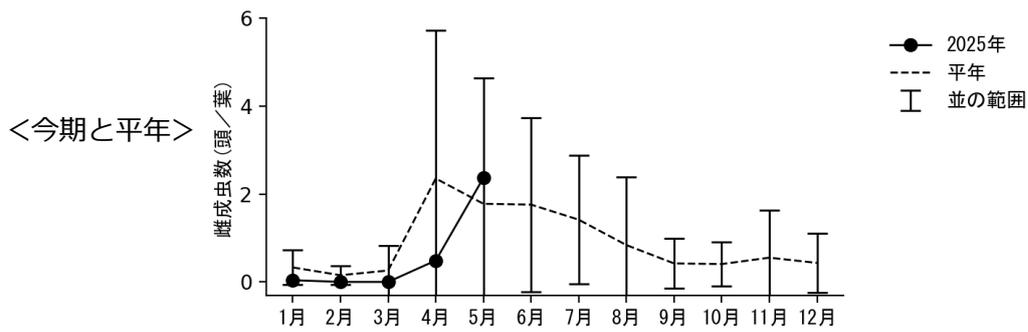


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ
- ・発生施設率40.0% (平年：37.0%)

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

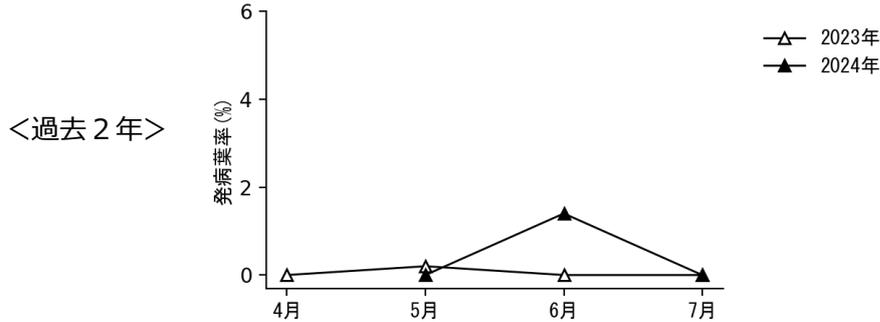
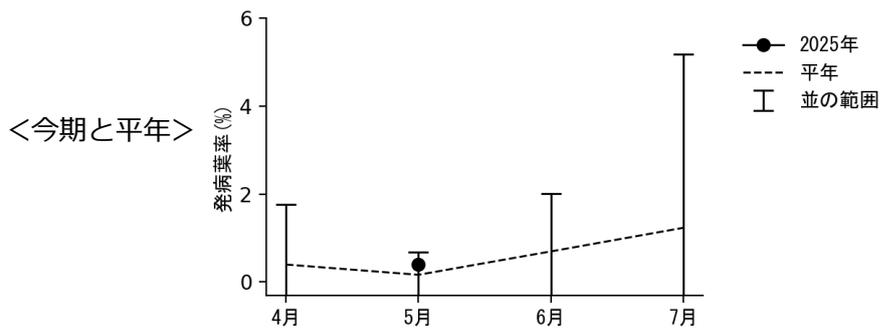


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予 報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

発病葉率の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 8.0%)

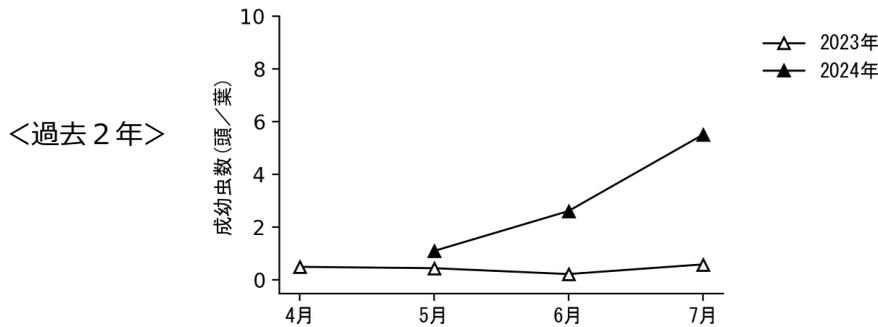
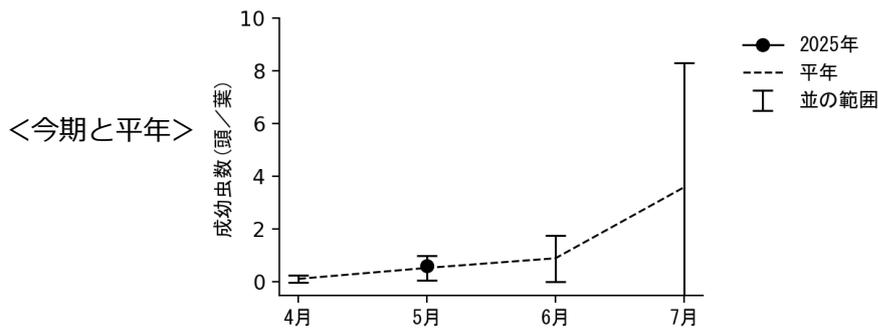
防除のポイント

- ・下位の罹病葉や残葉は速やかに除去し、風通しを良くする。
- ・窒素過多にならないようにする。
- ・草勢を維持し、適切な施肥管理を行う。

作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>	
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	→		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率100% (平年 : 66.0%)

防除のポイント

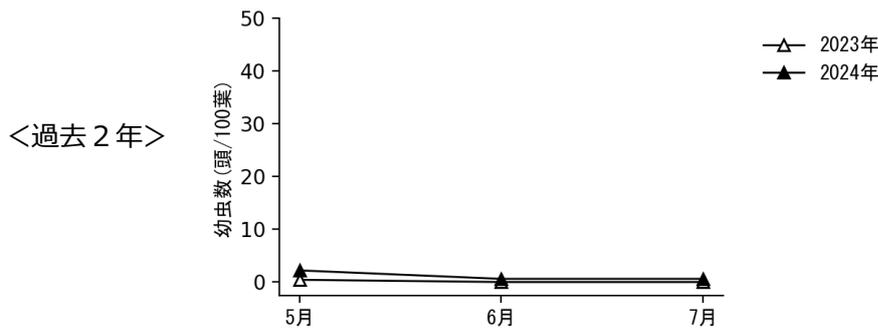
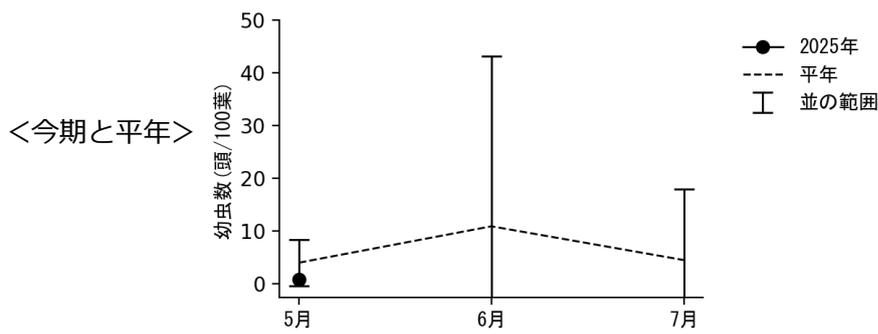
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ		地域	宮古群島
病害虫名	チョウ目幼虫			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↗		
	6 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

幼虫数の推移



・発生ほ場率40.0% (平年 : 50.0%)

防除のポイント

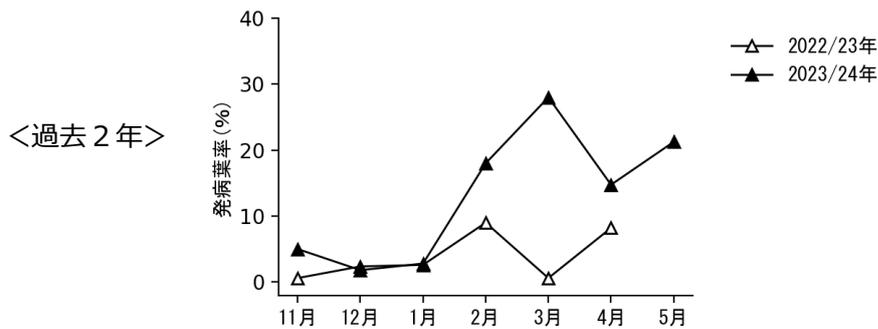
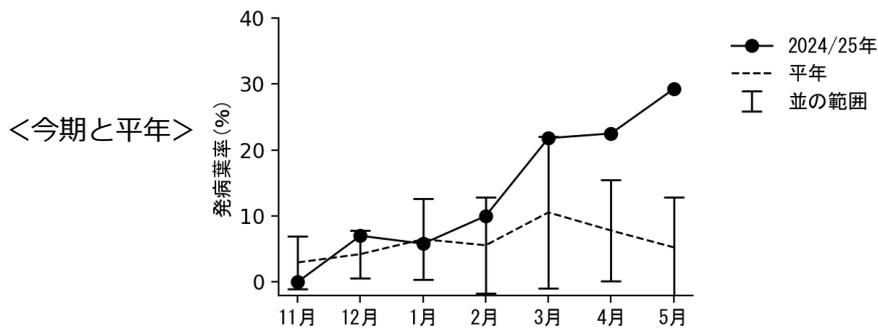
- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。



作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5月の発生量(平年比)	やや多	
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量(平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

発病葉率の推移



- ・発生施設率100% (平年：39.3%)
- ・一部施設で多発

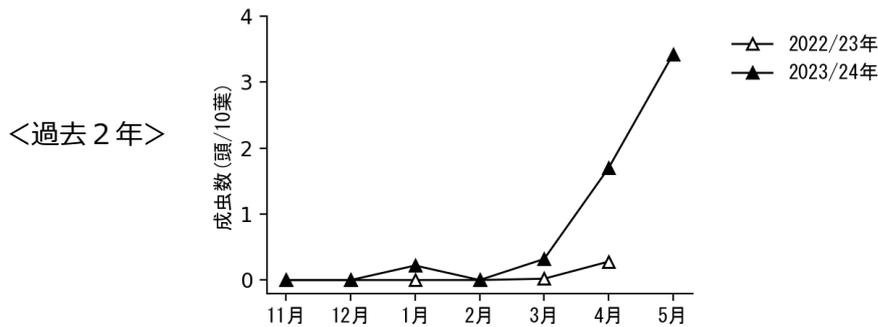
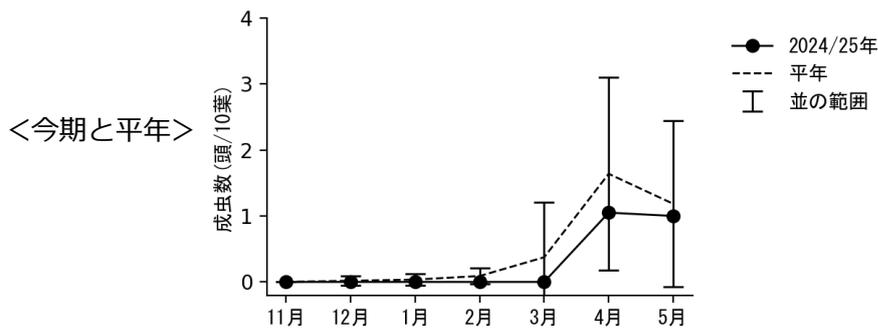
防除のポイント

- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	—		
	6 月の発生量 (平年比)	—		
予報の根拠				

調査結果

成虫数の推移



- ・発生施設率50.0% (平年 : 39.3%)
- ・一部施設で多発

防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

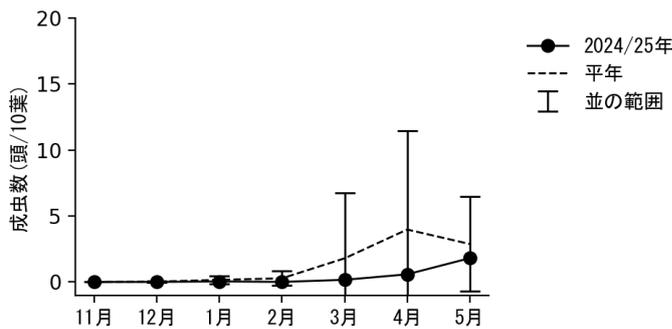
作物	ニガウリ(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			



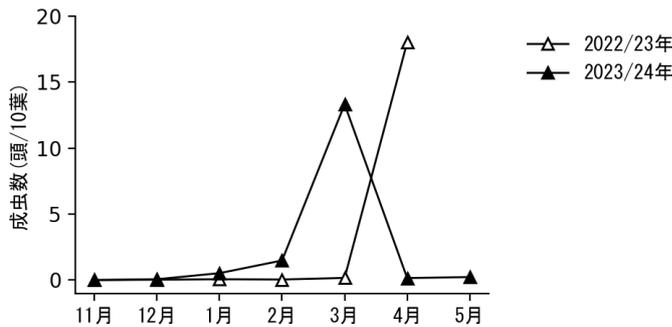
調査結果

成虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



- ・発生施設率25.0% (平年 : 39.3%)
- ・一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



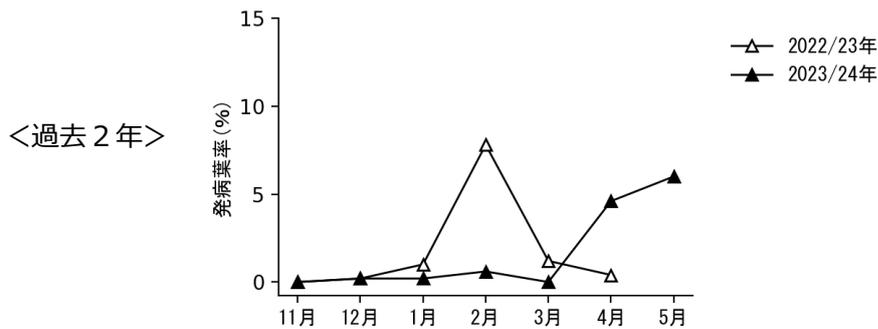
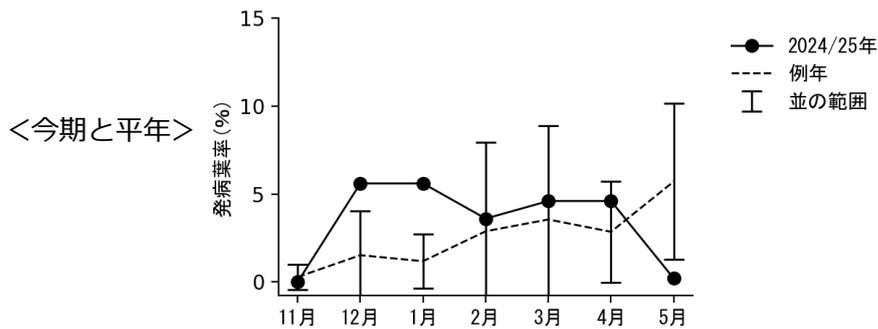
幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	うどんこ病		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	やや少	
予 報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	

予報の根拠

調査結果

発病葉率の推移



・発生施設率20.0% (例年：36.4%)

防除のポイント

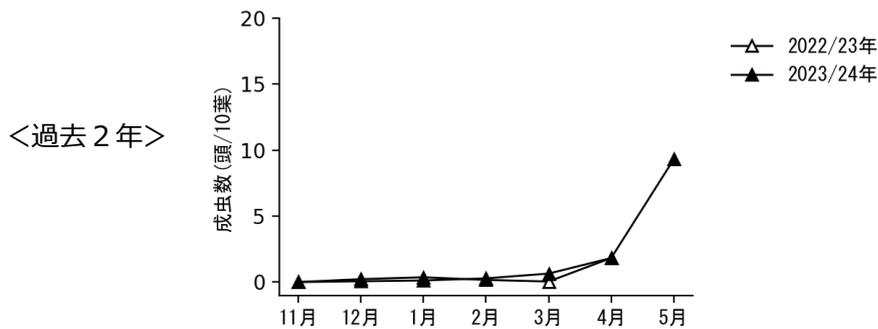
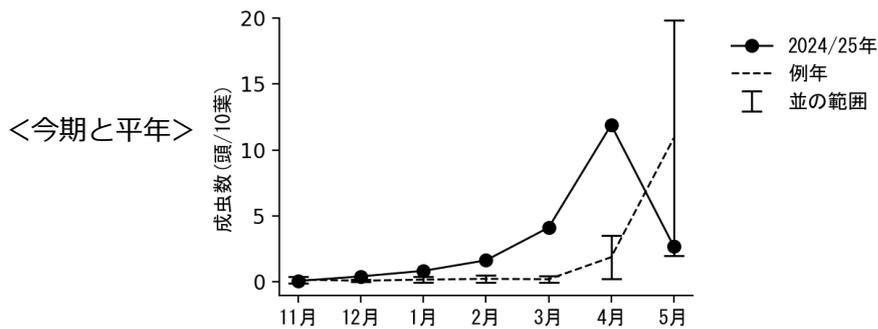
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	—	
	6 月の発生量 (平年比)	—	

予報の根拠

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率80.0% (例年 : 63.6%)

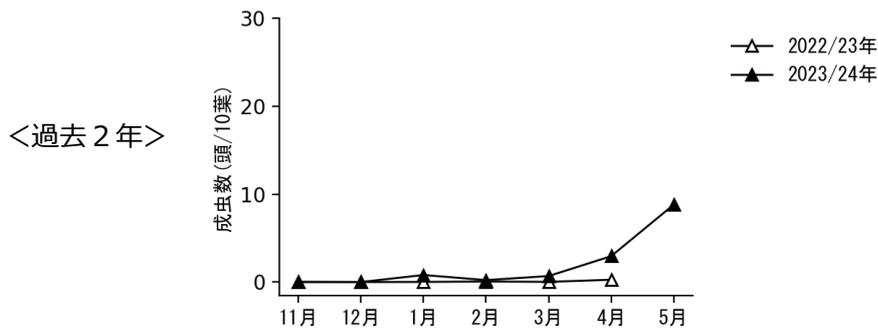
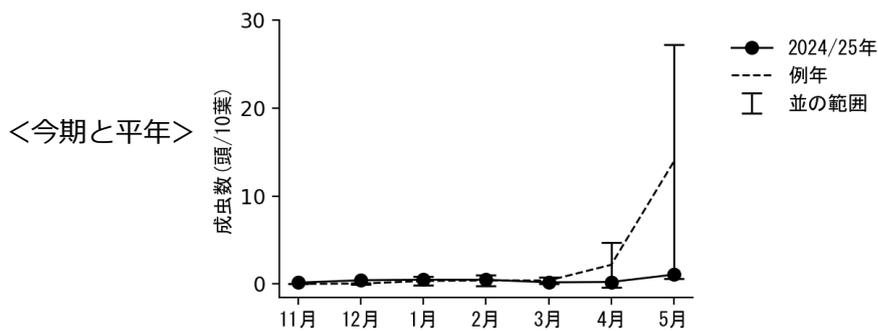
防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		
調査結果	5月の発生量(平年比)	並	 <p>成虫</p>
予報	5月からの増減傾向	—	
	6月の発生量(平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移



・発生施設率60.0% (例年：54.5%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。



幼虫